



いしずえ

恵那北中学校 学校だより 第 256号
発行: 令和4年9月29日(木)

◇「いしずえ」の名称は、校歌の一節「学ぶことそれは礎」から生涯学習の基礎を学ぶ生徒達の心と体の成長を願ってつけました。
◇NOは創刊号以来の通番でつけております。

自己実現 ～なりたい自分になるために～

校長 可知 浩幸

9月も終わりに近づき、体育大会の取組も大詰めを迎えています。9日の結団式以来、生徒全員が楽しめる体育大会にしようと、生徒会と団リーダー中心に団あるいは全校が一丸となって、種目練習や応援練習に取り組んでいます。教師達はほとんど前に出ることも口出しすることはありません。(我慢しているなという場面もありましたが…)計画されたすべての取組を生徒達の自治の力、団結力、行動力に委ねています。生徒達も自分達に任せてくれる教師達の熱意に意気を感じて、全員が当事者意識をもって主体的に自分たちの手で感動する体育大会を創り上げようとしています。

この「任せとけ」という感情(自己有用感)と「やればできる」という自信(自己肯定感)は、なりたい自分になるために努力していく原動力になります。

ここに、ある小学校6年生の児童の作文を紹介します。

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校で全国大会に出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには、練習が必要です。

ぼくは、その練習には自信があります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳～7歳までは、半年くらいやっていましたが、3年生の時から今までは、365日中、360日ははげしい練習をやっています。だから、一週間中、友達と遊べる時間は、5～6時間の間です。

そんなに、練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は、中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団でけいやく金は、一億円以上が目標です。ぼくが自信のあるのは、投手と打撃です。

去年の夏ぼくたちは、全国大会へ行きました。そしてほとんどの投手を見てきましたが、自分が大会ナンバー1選手とかくしんできるほどです。打撃では、県大会、4試合のうちに、ホームランを3本打ちました。そして、全体を通した打りつは、5割8分3りんでした。

このように、自分でもなっとくのいくせいせきでした。そして、ぼくたちは、一年間負け知らずで野球ができました。だからこの、ちょうしで、これからもがんばります。

そして、ぼくが一流の選手になって試合にでれるようになったら、お世話になった人に、招待券をくばって、おうえんしてもらうのも夢の1つです。とにかく一番大きな夢はプロ野球選手になることです。

愛知県西春日井郡豊山小学校6年2組 鈴木一朗

この作文の作者は、皆さんもよくご存知の元メジャーリーガーのイチローです。ドラフト4位、契約金4千万円、年俸430万円で夢のプロ野球人生をスタートさせたイチローは、数年で一億円プレーヤーとなって海を渡り、作文で書いた目標以上の偉業を成し遂げました。先月、シアトルマリナーズの殿堂入りセレモニーで「日本から来たやせっぽちの男がこのユニフォームを着て戦い、そして今夜皆さんの前に立って名誉を受けることができるわけですから。あなたにもできないはずはないのです」と語りました。幼少時代から作文に書いたような努力に裏打ちされた強い言葉です。

そんなイチローが、なりたい自分になるためには…次のように助言しています。

「夢や目標を達成するには、1つしか方法がない。それは、小さなことを積み重ねること」

「小さなこと」とは、自分がやると決めたこと、やりたいことです。決して人から与えられたこと、指示されたことではありません。そのことをよく理解し、体育大会に向けて取り組む生徒達がいます。「感動的な体育大会になる予感がします。とても楽しみになってきました。」